

機関番号：12703

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21530214

研究課題名 (和文) 中国と G7 諸国における為替レート、貿易構造、貿易収支

研究課題名 (英文) Exchange Rate, structure of Trade and Trade balance in the context of China and G-7 Countries

研究代表者

シン ユーチン (XING YUQING)

政策研究大学院大学・政策研究科・教授

研究者番号：80288232

研究成果の概要 (和文)

本研究の主要な成果は以下のとおりである。1. 1994 年から 2008 年にかけての中国の全体的な貿易黒字は 100%加工貿易によるものであり、中国と G7 諸国及びその他の主要な貿易相手国との二国間貿易収支を決定するものである。2. 人民元が上昇すると、中国の加工品輸出だけでなく、加工品輸入も減少する。人民元の上昇が中国の貿易収支にもたらす全体的な効果は限られている。さらに、人民元の上昇は、中国で生産された付加価値商品には影響をもたらすが、「中国製」商品に組み込まれたあらゆる付加価値に影響を与えるわけではない。3. 人民元上昇のパススルーは不完全である。日本では、中国からの輸入品価格にパススルー効果は見受けられない。4. 現在の貿易統計により、米中の二国間貿易不均衡は大幅に拡大している。中国の対米貿易黒字の大部分は、第三国から移ってきたものである。貿易統計の改革が求められる。

研究成果の概要 (英文)

The major results of this research are 1. China's overall trade surplus from 1994-2008 were attributed 100% to processing trade, which also determined China's bilateral trade balance with G-7 and other major trading partners; 2. The appreciation of the Yuan would not only reduce China's processing exports but also processing imports. The overall effect of the Yuan's appreciation on China's trade balance would be limited; in addition, the appreciation of the Yuan would affect only the value added produced in China NOT all value added embedded in "made-in-China" Products. 3 the pass-through of the Yuan appreciation is in-complete. There is no pass-through effect to the prices of Japanese imports from China; and 4. Current trade statistic greatly inflates the bilateral trade imbalances between China and the US. Most of China's trade surplus with the US was transferred from third countries. Reforms in trade statistics are needed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：International Economics, Development Economics, Chinese Economy

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：China, exchange rates, trade balances, processing trade

1. 研究開始当初の背景

2007年、米国の対中貿易赤字は過去最高の2,560億ドルに達した。「切り下げられた」人民元は、巨額の貿易赤字の根源として、米国の政治家、政策立案者、並びに経済学者の非難の的となった。批評家は、人民元切り下げの結果、中国の輸出は人工的なまでに安くなり、貿易黒字は増大し、米国の輸出競争は弱まる、と指摘している。

1980年から1994年にかけて、日本円を含む全ての主要通貨に対して、人民元の「切り下げ」が実施された。この人民元切り下げが、米国貿易赤字拡大の主な原因であるなら、中国の貿易相手国第2位である日本も、巨額の対中貿易赤字を抱えるはずである。しかし、日中の二国間貿易を詳しく見ると、人民元の「切り下げ」と貿易赤字の因果関係の論理は成立しないようだ。2007年、日本の対中貿易赤字はたったの180億ドルであり、日中の二国間貿易全体の8%以下にとどまっている。実際、日本の対中輸出は1990年から2007年まで毎年18%ずつ増加しており、中国の対日輸出は14.5%増加している。二国間貿易全体としては、日本の対中貿易赤字は、実際1990年の33%から2007年の8%にまで減少しているが、米国は54%から66%へ増加した。この違いから、人民元の「切り下げ」が米国の貿易赤字の主な原因ではないかもしれないことが示唆される。人民元切り下げが貿易赤字にどの程度関係しているかを把握するには、全G7諸国と中国との貿易収支など、より広い前後関係における中国の為替レート政策の役割を調査することが不可欠である。これには、1980年から1994年にかけて、全G7諸国の通貨に対して人民元の大幅な切り下げを行った経緯がある。

為替レート以外にも、国の輸出供給と輸入需要の構造が、二国間貿易収支において重大な役割を果たす。たとえば、日本の急速な対中輸出の一部は、中国における自動車需要の伸びに支えられている。米国の自動車メーカー上位3社は、生き残りをかけて熾烈な争いを繰り広げている。彼らは、急速に成長する中国の自動車市場に取り入る機会を逃したのである。一般的に、二つの貿易相手国の構造の違いは、為替レートと貿易収支の関連性についての文献では無視される。今回計画している研究では、為替レートと貿易構造の違いをとともに取り上げ、中国とG7諸国間の貿易収支の独立変数として考慮に入れる。

2. 研究の目的

中国とG7諸国間の貿易収支が、貿易構造の違いによって、どの程度決定されるのかについて研究する。二国間貿易では、両国の輸出入構造が相互に釣り合っていれば、貿易不均衡は小さくなる、というのが仮説である。

2005年11月に中国が人民元の切り上げを行ってから3年経った。人民元は、米ドルに対し、累積的に20%値上がりしている。人民元の上昇が、米国の貿易赤字を緩和する助けとなるのかどうかは、値上がり分がどれだけ中国の輸出価格に反映されるか、にかかっている。パススルー効果がほぼない場合、人民元の切り上げは、貿易赤字の有効な解決方法にはならない。従って、人民元のパススルー効果における実証的研究は、非常に重要な政策的意味を持つことになる。

まとめると、三つの研究目的をもって、下記を達成する予定である。

(1) 中国の全体及び二国間の貿易収支における加工貿易の役割を分析する。

(2) 加工貿易が、中国と、G7 諸国及びその他の主要な貿易相手国との貿易収支をどの程度決定するのか検証する。

(3) 2005 年以降の人民元上昇によるパススルー効果を測定する。この実証的作業によって、米国の対中貿易赤字削減に対する人民元上昇効果の本質的な評価結果が得られる。

4. 加工品輸出入における為替レートの弾力性を検証する。

3. 研究の方法

(1) 文献再読

(2) 1993 年から 2008 年までの中国の全貿易相手国、為替レート、日本と米国における中国からの輸入物価指数、などの中国加工貿易に関するデータマイニング

(3) 人民元の為替レートのパススルー効果における計量経済学的分析

(4) 中国の加工品輸出入における為替レートの弾力性の推定

(5) iPhone 貿易を例に、米中貿易収支における人民元上昇の影響、貿易におけるサプライ・チェーンの役割、二国間貿易収支における現在の貿易統計の歪み、などを分析する。

4. 研究成果

論文は査読付き学会誌に掲載された。三本の論文タイトルは以下のとおりである。1.

「Processing Trade, Exchange Rates and China's Bilateral Trade Balances (加工貿易、為替レート及び中国の二国間貿易収支)」、2. 「How the iPhone Widens the United States Trade Deficit with the People's Republic of China (iPhone がいかに米国の対中貿易赤字を拡大させるか)」、3. 「The Yuan's Exchange Rates and Pass-through

Effects on the Prices of Japanese and the US Imports (人民元の為替レートと日米輸入価格におけるパススルー効果)」

iPhone の論文がもっとも重要な成果をあげた。The Wall Street Journal、The Financial Times、The Time Magazine、The Forbes、Foreign Policy、The National Public Radio of the US、China Daily、People's Daily など、世界各国 30 を超えるメディアで取り上げられた。生産チェーンや、付加価値アプローチに基づく新たな貿易統計に関するあらゆる研究で引用されるべき第一級の出来映えとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文]

(計 4 件)

1. Yuqing Xing, "Processing Trade, Exchange Rates and China's Bilateral Trade Balances," The Journal of Financial Research, Vol. 2, 2012, page 18-29 (in Chinese) (査読有)
2. Yuqing Xing and Deal Detert, "How the iPhone Widens the United States Trade Deficit with the People's Republic of China," Aussenwirtschaft (The Swiss Review of International Economic Relations), Sept. 2011, page 339-350. (査読有)
3. Yuqing Xing, "The Yuan's Exchange Rates and Pass-through Effects on the Prices of Japanese and the US Imports," Comparative Economic Studies," 52(4), page 531-548 (査

読有)

4. Yuqing Xing, “How the iPhone widens the US trade deficit with China, “ April 10, 2011, VOXEU, <http://www.voxeu.org/index.php?q=node/6335>

[学会発表] (計 6 件)

1. Yuqing Xing, “The Yuan’ s Exchange Rates and Pass-through Effects on the Prices of Japanese and the US Imports,” the Annual meeting of the Association for Comparative Economic Studies, Jan. 3-5, 2010, Atlanta, USA.
2. Yuqing Xing, “The Yuan’ s Exchange Rates and Pass-through Effects on the Prices of Japanese and the US Imports,” the annual meeting of Chinese Economist Society, June 19-21, Xiamen, China
3. Yuqing Xing, Processing Trade, Exchange Rates and China’ s Bilateral Trade Balances,” the Beijing Forum, Nov. 5-7, 2010;
4. Yuqing Xing, Processing Trade, Exchange Rates and China’ s Bilateral Trade Balances,” the annual meeting of the Chinese economist society, June 17-19, 2011 Beijing.
5. Yuqing Xing, “The iPhone Trade and its Implications for Debates about Global Imbalances,” EU Chamber of Commerce in China, June 21, 2011, Beijing, China.
6. Yuqing Xing, “ “Processing Trade, Exchange Rates and China’ s Bilateral Trade Balances,” Bank of Finland, June 30, 2011, Helsinki.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

シン ユーチン (XING YUQING)

政策研究大学院大学・政策研究科・教授

研究者番号：80288232